



1 就農したきっかけ
 幼い頃から実家の手伝いをしていましたが、農家を継ぐ気持ちは特にありませんでした。高校卒業後は20歳までの2年間、農業の手伝いをしていましたが、札幌市に就職が決まり、一度農業から離れることになりました。その後、家族ができたのをきっかけに地元に戻り農業を始めることになり、今年で就農12年目を迎えます。



青年部に加入したことで、多くの知識が身につくとき、充実した農業生活を送ることができます。

2 仕事をするうえで大切にしていること
 農業は自然相手なので、激しく変化する天候に対応できるよう心掛けています。特に近年は高温・干ばつ、豪雨などの異常気象により、どの時期に何をするか見極めるのがとても難しくなっています。ですので、地域の先輩や青年部の盟友と情報共有をしています。情報共有をすることで新しい知識を身につけることができ、自身の栽培技術の向上にもつながるので、分からないことがあればすぐに相談をするようにしています。



農業に懸ける情熱



3 青年部活動で得たもの
 青年部に加入した当初は、青年部がどんな活動をしている組織かもわかっていませんでした。当時の支部長に誘われて加入したことで多くの盟友と関わることができ、情報交換や悩みの共有、仲間と一緒に困難を乗り越える重要性などを学ぶことができました。令和元年には青年部長を務めました。当時はとても忙しく、いつも事業に追われていましたが、今思えばそれも楽しい思い出です。40歳を迎え、青年部を脱退した今でも、営農技術等で困ったことがあれば当時の盟友に相談するなど、青年部に所属していたからこそできることがあり、加入していて良かったなと思います。



人物 memo

美唄市西美唄町
渡邊 弘泰 さん(41歳)

妻の友美さんと父の松男さん、母の美代子さんの4人で約30畝の農地に水稲や小麦・大豆を栽培。高校を卒業後、札幌で接客業を経験。その後、家族ができたことをきっかけにUターンして就農。